

# オーストリアの教員養成

## ―総合大学と教育大学との比較を中心に―

非常勤講師 田 中 達 也

### はじめに

本論文では、オーストリアの教員養成制度とそのカリキュラムについて述べる。現在、オーストリアの教員養成は、総合大学と教育大学の2つに分かれて行われている。総合大学では、大学進学を目指す一般教育高等学校（Allgemeine Höhere Schule, AHS）<sup>(1)</sup>の教員を養成している。それに対して、教育大学ではそれ以外の学校の教員養成が行われている。そして、幼稚園・学園等就学前教育段階の教員養成は、後期中等教育段階で行われる。

本論文は、オーストリアの教員養成システムの概要について述べ、総合大学・教育大学のカリキュラム比較を行う。近年、高等教育段階ではボローニャ・プロセスというヨーロッパ単位の学位の共通化が図られているのだが、そのような動きに対してオーストリアはどのように対応しようとしているのかについて言及することが目標である。

## 1. オーストリアの教員養成システム

### (1) 総合大学<sup>(2)</sup>における教員養成

総合大学（Universität）ではオーストリアの教育制度（図1）における一般教育高等学校（AHS）の教員養成が行われる。総合大学では、教職課程のコースが4つの領域、計30コース設けられており、教員希望者はその中か

ら2つの職業準備コースを選択する形で行われる<sup>(3)</sup>。言い換えれば、2つのコースを修了しなければAHSの教員になることはできないのである。職業準備コースは、総合大学の学部の学科（Institut）ごとに行われる。

授業領域は、大きく分けて①精神・文化系、②自然科学系、③神学系、④芸術系からなる。①精神・文化系には、ボスニア語・クロアチア語・セルビア語（3つで1つのコースを成している。以下同じ）、ドイツ語、英語（イギリス学・アメリカ学）、フランス語、歴史・社会科学・政治教育、ギリシア語、イタリア語、ラテン語、哲学・心理学、ロシア語、スロヴェニア語、スペイン語、チェコ語、ハンガリー語からなる14のコースがある。②自然科学系には、生物学・環境学、化学、画法幾何学、地理学・経済学、家政経済・栄養、情報・情報経営、運動・スポーツ、数学、物理学からなる9のコースが設けられている。③神学系には、カトリック宗教、プロテスタント宗教の2つのコースがある。④芸術系には、彫刻教育、器楽教育、音楽教育、紡績造形、工芸教育の5コースがある<sup>(4)</sup>。

基本的には2つのコースを自由に選択することが出来るのだが、3つの例外がある。それは、①画法幾何学コースを選択した学生は、情報・情報経営もしくは数学のコースしか選択することが出来ないこと、②器楽教育コースを選択した学生は音楽教育しか選択することが出来ないこと、③プロテスタント宗教科とカトリック宗

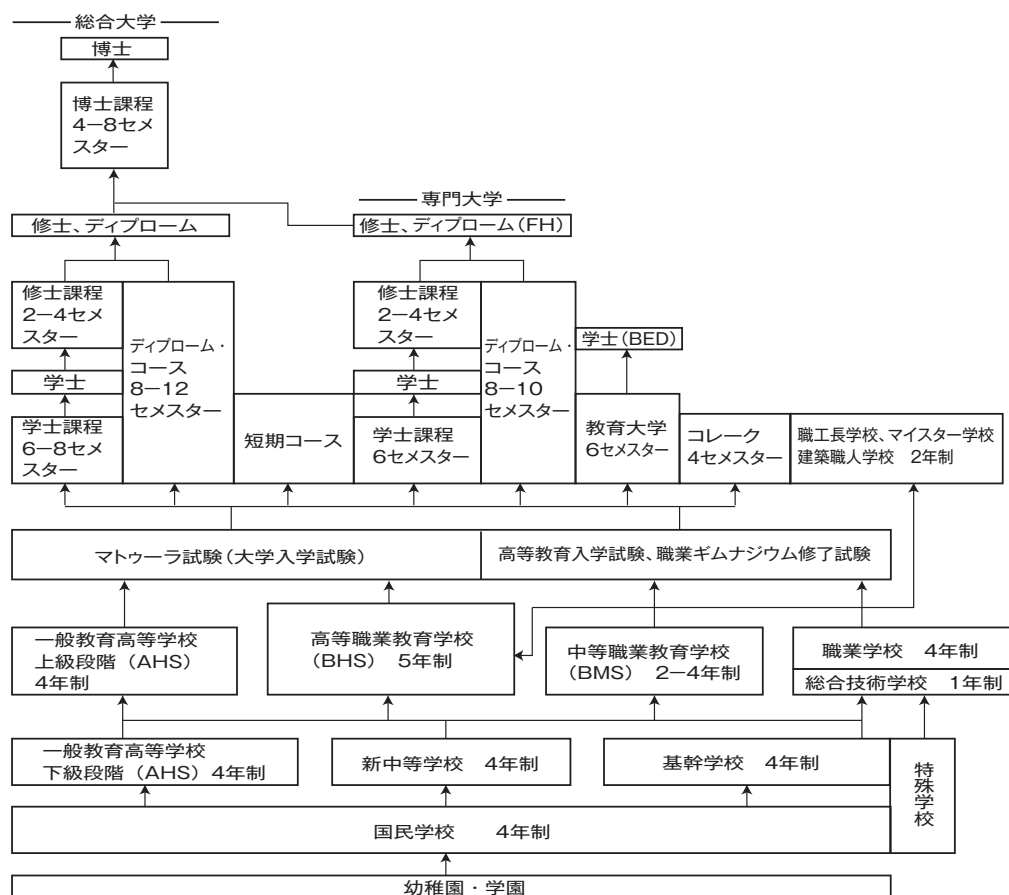


図1 オーストリアの教育制度

出所：Statistik Austria, *Bildung in Zahlen 2008/09 Schlüsselindikatoren und Analysen* S.17.を元に作成。

教科を一緒に履修することが出来ないことである<sup>(5)</sup>。最初の2つは、専門領域が非常に近いことに起因し、3つ目は1人の教員がカトリックとプロテスタント両方の宗教科目を教授することが出来ないことを示している。

1999年のボローニャ宣言以後、オーストリアの高等教育機関の教育課程は、6セメスターの学士（バチェラー）・4セメスターの修士（マスター）・6セメスターの博士（ドクター）に対応できるように再編されてきたのだが、教職課程のコースはバチェラーとマスターを合わせたディプローム・コースが維持されている。こ

のコースは9-10セメスターからなり<sup>(6)</sup>、卒業した者はマギステル（Magister）の資格を得ることが出来る。この法的根拠になっているのは、大学法第54条2項に以下の記述がされていることである。

新設の研究コース（Studien）の教育課程については、基本的に学士・修士課程としてのみ設立されることが許される。大学教育法が廃止されて大学法に変更される2003年12月31日までディプローム・コースの設立が許可される。教職課程と医学と歯学は、ディプロー

ムの形態で教育課程を提供することが許される。ディプローム・コースについては、その都度大学教育法で規定されている学位に固定される<sup>(7)</sup>

これは、教職課程と医学部の医師・歯科医養成コースについては、ディプローム・コースを維持することが認められていることを示している。

また、教職課程における教育実習期間についてだが、全体の20%から25%となっている。その法的根拠は、大学法第54条6項に以下の記述がされていることによる。

教職課程における教育的・教授法的な専門教育については、それぞれの教育領域に課せられた単位全体の20%から25%までの学校実践的な専門教育が定められなければならない<sup>(8)</sup>

以上のように、AHSの教員養成は総合大学のディプローム・コースにおいてのみ行うことが出来る。ただし、例外的に私立大学(Privatuniversität)であるリンツ・カトリック神学私立大学はカトリック宗教科の教員養成(ディプローム・コース)を行うことが出来る。というのも総合大学であるリンツ大学に神学部が設置されていないからである<sup>(9)</sup>。

## (2) 教育大学における教員養成

教育大学(Pädagogische Hochschule, PH)は、一般教育高等学校以外のほとんどの教育機関の教員養成を行う教育機関である。具体的には、国民学校(Volksschule)、基幹学校(Hauptschule)、特殊学校(Sonderschule)、総合技術学校(Polytechnische Schule)、職業学校(Berufsschule)、中等職業教育学校(Berufsbildende mittlere Schule, BMS)、高等職業教育学校(Berufsbildende

höhere Schule, BHS)の教員養成がそれに相当する。教育大学を法的に裏づける「教育大学の組織とその研究に関する連邦法」、通称教育大学法(Pädagogische Hochschulgesetz)は2005年に成立した。教育大学の法的立場について記述する第2条2項は、「公立の教育大学は、大学法2002では中等後教育機関(postsekundäre Bildungseinrichtungen)と承認され得る」としており、教育大学を大学としてではなく中等後教育機関として位置づけていることがわかる<sup>(10)</sup>。

教育大学の教員養成は、6セメスターの学士(バチェラー)のみで行われる。多くの教育大学では修士(マスター)まで設置されているのだが、教員になるために必要なのは学士のみであるため、教育大学の修士課程は教員養成課程とは異なる継続教育課程として扱われている。学士課程を修了した者には、Bachelor of Education (BEd)の学位が授与される。

教育大学の教育課程は、総合大学と比べるとやや複雑なので、最も多くのコースを設置しているウィーン市の教育大学を例に見ていくことにする。ウィーン市には、公立のウィーン教育大学(Pädagogische Hochschule Wien)と私立のウィーン・クレムス教会教育大学(Kirchliche Pädagogische Hochschule Wien/Krems)と農業・環境教育大学(Hochschule für Agrar- und Umweltpädagogik)の3つがある。ウィーン教育大学の教育課程は、国民学校、基幹学校、特殊学校、職業学校、BHS・BMSの栄養分野、情報・コミュニケーション分野、衣服・デザイン分野、工業分野の8つからなっている<sup>(11)</sup>。普通教育学校と職業学校が1つのコースで行われるのに対して、BHSとBMSは職種ごとに異なる教師教育が行われているのが特徴である。ウィーン・クレムス教会教育大学のウィーンキャンパスの教育課程は、国民学校、基幹学校、特殊学校、総合技術学校、義務教育学校の

宗教科目 (カトリックKatholisch、プロテスタントEvangelisch、東方正教会Orthodox、復古キリスト教Altkatholisch) の5つからなっている<sup>(12)</sup>。この教育大学は、宗教科目の教員養成コースを設置しているのが特徴である。ウィーンの教会教育大学のみがプロテスタント、東方正教会、復古キリスト教のコースを設けており、他の教会教育大学は、カトリックのコースしか設置していない。農業・環境教育大学は、農業教育コースと環境教育コースの2つのみを設置している<sup>(13)</sup>。この教育大学は、BHS・BMSの農業分野の教員養成を行っており、ウィーンにのみ設置されている。

次に、教育課程の中身について述べる。教育大学のカリキュラムについては、「試験規則を含むカリキュラム形成の基本原則に関する教育省の規則」(以下、教育省<sup>(14)</sup> 規則と略称) が出されており、その規則に沿って編成が行われている。総合大学では、30の専門領域に分かれていたのだが、教育大学の普通教育機関の教員養成課程における専門領域は非常に少ない。国民学校と特殊学校については、全ての学生が同一内容について学ぶため、専門領域は1つしかない。それに対して、基幹学校と総合技術学校については専門領域が複数設定されている。教育省規則第11条2項では、

・・・基幹学校と総合技術学校の学生は、必修科目として「ドイツ語」か「外国語」か「数学」を選択しなければならない。さらにその1科目以外の専門科目も選択しなければいけない。・・・

となっている。つまり、基幹学校の総合技術学校の教員養成課程では、学生はまずドイツ語・外国語 (英語)・数学の中から1つを選択した上で、もう1つの専門科目を追加で選択する必要がある。

そして、より複雑な体系となっているのが職

業教育学校系の教員養成システムである。職種の分類については、教育省規則第13条では、職業教育の教職課程の範囲について職業学校を対象とした職業教育と、BHS・BMSを対象とした工業教育、モード・デザイン教育、栄養教育、情報・コミュニケーション教育、農業・環境教育、環境教育の計7つにすることが定められている。

定時制の職業学校の教員になるためには、教育大学の職業学校の教員養成課程を修了するだけでは不十分で、2年制の継続教育機関である職工長学校 (Werkmeisterschule)・マイスター学校 (Meisterschule)・建築職人学校 (Bauhandwerkschule) のいずれかの学校を修了して職工長 (Werkmeister)・マイスター (Meister)・建築職人 (Bauhandwerker) のいずれかの資格を取得しなければならない<sup>(15)</sup>。これらの学校は、オーストリア経済会議所 (Wirtschaftskammer Österreich) 傘下の経済支援協会 (Wirtschaftsförderungsinstitut, WIFI) に設置されている。つまり、教育大学の教職課程を修了することにより一般教科を教えることができ、経済界によって認可されている職工長・マイスター・建築職人の資格を得ることによって専門教科を教えることができるようになるのである。このように職業学校の教員になるためには、教育界・経済界双方で教える資格を得なければならないため、非常に履修科目の多いことがわかる。

それに対して、全日制のBMS・BHSの教員になるためには、教育大学の教職課程を修了すればすぐに教員になることが出来る。BMSの教員は全ての教科を教えることができるのだが、BHSの教員は一般教育科目しか教えることができないという特徴がある。というのもBHSでは学校内部で行われる職業教育科目については、企業から派遣される外部講師 (熟練職人等) によって行われるからである。この外部講師については教えるための資格は設けられていない

<sup>(16)</sup>。BMSやBHSは、定時制の職業学校とは異なり全日制の学校であるため、規則がやや緩やかである。

### (3) 高等職業教育学校・中等職業教育学校における教員養成

このように、AHSの教員は総合大学、それ以外の学校は教育大学に教員養成課程が設置されているのだが、若干の例外がある。それが後期中等教育段階のBHSとBMSで行われる教員養成である。まず、就学前教育機関である幼稚園（Kindergarten）と学園（Horte）<sup>(17)</sup>の教員養成は、BHSの一部である幼稚園教育のための教育機関（Bildungsanstalt für Kindergartenpädagogik, BAKIP）で行われ、

オーストリアに30校設置されている。内訳は、首都ウィーン・シュタイエアマルク州で6校、ニーダーエスターライヒ州・オーバーエスターライヒ州で5校、ティロル州で3校、フォアアールベルク州・ケルンテン州・ブルゲンランド州で各1校となっている<sup>(18)</sup>。BAKIPは、5年間（10セメスター）であり、カリキュラムは表1・2の通りである。これは、当時の学術研究省（現在の教育省）が2004年8月12日に官報で出した幼稚園の教員養成機関の教育課程に関する指令（Verordnung über den Lehrplan der Bildungsanstalt für Kindergartenpädagogik）に沿って編成されている。科目領域は、6つに分けられる。表1はA.必修教科（Pflichtgegenstände）の週当たりの時間数を示したものであり、表2は

表1 BAKIPのカリキュラム（1）

	週当たりの時間数					
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	合 計
A. 必修教科						
宗教	2	2	2	2	2	10
教育学（教育心理学、教育社会学、哲学を含む）		2	2	3	3	10
養護教育・特殊教育				1	1	2
教授法	2	2	2	2	2	10
幼稚園実習	2	2	4	4	4	16
ドイツ語（話術教育、児童・青年文学を含む）	4	3	3	3	2	15
外国語	3	3	2	2	2	12
歴史・社会科・政治教育	2	1	2		2	7
地理学・経済学	2		2	2		6
数学	2	2	2	2		8
物理学		2		2		4
化学		2	2			4
生物学・環境学（健康・栄養を含む）	2	2	1	2		7
音楽教育	2	1	1	2	2	8
器楽教育Ⅰ（ギター・ピアノ・アコーディオン）	2	1	1	1 か 0		5 か 4
器楽教育Ⅱ（フルート・バイオリン）		1	1	0 か 1		2 か 3
リズムに関する音楽教育		1	1	1	1	4
造形教育	2	2	2			6
工芸教育	1	1	1			3
織物造形	1	1	1			3
造形教育ゼミナール				1	1	2
工芸教育ゼミナール				1	1	2
織物造形ゼミナール				1	1	2
体育（運動とスポーツ）	2	2	2	2	3	11
情報とメディア	1	1	1			3
組織・経営・権利のゼミナール					2	2
栄養実習のゼミナール	1	1				2
合 計	33	35	35	34	29	166

出所：Bundesministerium für Unterricht, Kunst, und Kultur, *Lehrplan der Bildungsanstalt für Kindergartenpädagogik*, S.6.  
[http://www.abc.berufsbildendes.chulen.at/upload/655\\_lp\\_bakip\\_anl.pdf](http://www.abc.berufsbildendes.chulen.at/upload/655_lp_bakip_anl.pdf)（2010年11月29日確認）

表2 BAKIPのカリキュラム (2)

	週当たりの時間数					
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	合 計
B. 義務的な訓練						
コミュニケーションの実践と集団のダイナミズムゼミナール					2	2
C. 学園の教師教育の必修教科						
教育学・学園				1		1
学園教育の教授法			1	1	2	4
学園での実践			1	2	2	5
ドイツ語 (学習補助)					1	1
外国語 (学習補助)					1	1
数学 (学習補助)					1	1
合 計			2	4	7	13
D. 自由選択科目						
発声法ゼミナール		1				1
早期教育Ⅰ (生理的な基礎)					1	1
早期教育Ⅱ (教育学と早期教育の教授法)				2	2	4
早期教育Ⅲ (早期教育の教授法)			1			1
早期教育Ⅳ (早期教育の実践)			1	2		3
E. 義務でない訓練						
早期教育: 早期教育の実践、コミュニケーション、人格教育					3	3
F. 支援の授業						

出所: Bundesministerium für Unterricht, Kunst, und Kultur, *Lehrplan der Bildungsanstalt für Kindergartenpädagogik*, S.7.  
[http://www.abc.berufsbildendeschulen.at/upload/655\\_lp\\_bakip\\_anl.pdf](http://www.abc.berufsbildendeschulen.at/upload/655_lp_bakip_anl.pdf) (2010年11月29日確認)

B.義務的な訓練 (Verbindliche Übung)、C.学園の教師教育の必修教科 (Pflichtgegenstände der zusätzlichen Ausbildung zur Erzieherin/zum Erzieher an Horten)、D.自由選択科目 (Freigegenstände)、E.義務でない訓練 (unverbindliche Übungen)、F.支援の授業 (Förderunterricht) を示している。Aについては、一般教育科目が多くを占めており他のBHSとの共通点も多いのだが、教育学、養護教育・特殊教育、幼稚園実習が含まれている点が特徴的である。幼稚園実習については、8週間行われるのだが、全クラスの生徒が同時に行うことが出来ないで、「カリキュラムが各クラスで分配される」<sup>(19)</sup> 形で行われる。AとBの授業を受けてBHSマトウラ試験に合格すれば、幼稚園で働くことと大学に入学することが可能になる。しかしながら、それだけでは学園 (日本の

保育所に相当) で教員として働くことが出来ないで、多くの生徒はCも履修する。その他、DEFの科目も設置されている。Fの支援の授業については、各クラスが「学校年の一部で実施」し、「1学年につき最長8週間の授業を3回まで」<sup>(20)</sup> 実施することができるようになっている。

AHSを除く教育機関の体育の教員養成は、BMSの一部である体育教育のための教育機関 (Bildungsanstalt für Leibeserziehung) で行われる。この学校は、連邦スポーツアカデミー (Bundessportakademie, BSPA) と呼ばれており、ウィーン・リンツ・グラーツ・インスブルックの4か所に設置されている。「体育教師とスポーツ教師の専門教育の学校に関する連邦法」 (Bundesgesetz über Schulen zur Ausbildung von Leibeserziehern und Sportlehrern) でその詳細について規定されている。この法律の第



2条で「・・・教育課程で予定されている教育目標の期間は、1セメスターから8セメスターまでである。この学校は、学校組織法における中等学校である」<sup>(21)</sup>と記述されていることから、期間が半年から4年までのBMSであることがわかる。同法律の第3条3項では、教育課程における必修科目について以下のように記されている。

- a) 宗教、ドイツ語、政治教育、社会科、教育学、教授法・方法論、生理学・健康教育・解剖学、運動学、経営学(会計学を含む)、運動とスポーツの歴史、組織教育、1セメスター以上の外国語
- b) 運動とスポーツを中心とした一般的なスポーツの専門教育
- c) スポーツ教師として従事するために追加的に必要となる理論的・実践的な教育
- d) 体育教師の専門教育のための追加の実践的・体系的な訓練と学校法<sup>(22)</sup>

a) は一般教育科目、b)・c)・d) は体育に関する専門科目である。BSPAは、BAKIPと比べて情報量が少なく具体的な時間数にまで知ることとはできないのだが、多くの一般教養科目の履修を義務づけられていることはBAKIPと共通する。その一方で、教師教育や教育学に関する科目が少ない点がBAKIPと大きく異なる。

#### (4) 新中等学校における教員の扱い

新中等学校(Neue Mittelschule)は、2008年9月から導入された前期中等教育段階(10歳から14歳まで)の新しい学校である。従来この教育段階は、AHSと基幹学校の2つからなっていたのであるが、前者が大学進学コースであるのに対して後者は卒業後に就職するコースとなっていた。つまり、10歳の時点で子どもは将来、大学に進学するのかそれとも大学に進学し

ないですぐに就職するのかわを選ばなければいけない構図になっていたのである。

新中等学校の導入を積極的に進めた教育大臣のシュミットは、2007年初期の時点でその理由として

- ①9歳半で学校の進路を決めるのはとても早く、生徒が潜在能力を発揮することにはつながらない。
- ②中等教育段階の構造を変化させるためには、質の向上が伴わなければならない。新中等学校の目標は、新しい学習文化を持った現代的な学校である<sup>(23)</sup>

としている。つまり、将来の進路を決定する年齢を引き上げると同時に、学力をはじめとする質の向上を図るために新中等学校が設立されたことが分かる。設立形態は、AHSもしくは基幹学校からの形態変更を行うことによって行われる。2009年6月時点で、オーストリアで244の新中等学校が誕生していたのだが、AHSクラスは全801クラス中38クラスにとどまっていた。ただし首都ウィーンに限定すると、全79クラス中25クラスがAHSクラスであるため、AHSの新中等学校への参加率が比較的高い<sup>(24)</sup>。

教師教育については、AHS・基幹学校双方に配慮したものになっている。つまり、総合大学を修了してAHSの教員資格を持った教員と、教育大学を修了して基幹学校の教員資格を持った教員とが在籍する<sup>(25)</sup>。ただし、AHSクラスはほとんど存在しないため、「実質的には新中等学校のレベルは基幹学校と同じ」<sup>(26)</sup>であり、事実上は基幹学校の教員によって支えられていると言うことが出来る。

以上のように、オーストリアの教員養成システムは、総合大学と教育大学とで2分されている構造となっている。ポローニヤ改革によって、総合大学の教育課程の多くはディプローム・

コースから学士 (バチェラー)・修士 (マスター)へと再編されているのだが、教職課程は大学法によってディプロームを維持することが認められている。それに対して、教育大学の教職課程はディプローム・コースから学士課程に移行しており、このことは総合大学の教職課程が教育大学の教職課程と比べて格上の扱いがなされていることを示している。このような二元化の構造は、オーストリアの教員養成課程の特徴であり課題でもある。

## 2. 総合大学における教員養成

前章では、オーストリアの教員養成システムの構造について述べた。本章では、AHSの教員養成を行っている総合大学の教職課程のカリキュラムについて述べる。事例として、ウィーン大学教職課程の2010年度の「ドイツ語」コースと「カトリック宗教」コースのカリキュラムの概要について述べる。ドイツ語を選んだのは、国語として学校教育において非常に重視されているからであり、カトリック宗教を選んだのは教育大学の教職課程との比較を念頭に置いているからである。

### (1) 「ドイツ語」コースのカリキュラム14

「ドイツ語」の教職課程は、大きく分けて「専門課程」(Fachstudium)と「ドイツ語の専門教授法」(Fachdidaktik Deutsch)とに分かれ、それぞれの内部で学士課程に相当する第1期(Erster Studienabschnitt)と修士課程に相当する第2期(Zweiter Studienabschnitt)に分かれるという構造になっている。専門課程では、ドイツ語やドイツ文学について学ぶのに対し、ドイツ語の専門教授法ではドイツ語の教え方(話し方・書き方)といった教育方法・技術に関わる内容を学ぶ。

まず、専門課程の第1期は、DaF (Deutsch

als Fremdsprache、外国語としてのドイツ語)とDaZ (Deutsch als Zweitsprache、第2外国語としてのドイツ語)の練習(週2時間、3単位)のみとなっている。この2つの科目は、いずれもドイツ語を母語としない者がドイツ語の教職課程を履修する場合に受講しなければならない科目である。

第2期は、「ゼミナール」(Seminare)と「ディプローム試験受験者のためのゼミナール」(Seminare für Diplomand/inn/enn)からなっている。「ゼミナール」では、古典ドイツ文学、近代ドイツ文学、ドイツ語学、DaF/DaZが設置されている。古典ドイツ文学には9種類の授業があり、それぞれ週2時間の授業であるが、認定される単位数は6単位が2種類、8単位が4種類、11単位が2種類、12単位が1種類と幅がある。近代ドイツ文学には、16種類の授業があり、週2時間の授業で、6単位が1種類、8単位が12種類、11単位が2種類、12単位が1種類となっている。ドイツ語学には、10種類の授業があり、週2時間の授業で、6単位が2種類、8単位が4種類、11単位が3種類、12単位が1種類となっている。また、DaF/DaZには3種類のコースが設置され、いずれも週2時間3単位となっている。「ゼミナール」では、多くの授業の中から必要な単位数を満たすだけの授業を学生が自由に選択できるようになっていることがわかる。

「ディプローム試験受験者のためのゼミナール」にも古典ドイツ文学、近代ドイツ文学、ドイツ語学、DaF/DaZの4つが設置されている。複数の種類の授業が行われているのだが、授業時間と単位数は同じである。古典ドイツ文学には、週2時間6単位の授業が4種類設置されている。近代ドイツ文学には、週2時間6単位の授業が13種類置かれている。ドイツ語学の授業は、1つのみで週2時間6単位となっている。DaF/DaZは、週2時間9単位の講座が4種類



提供されている。

「ドイツ語の専門教授法」は、内部で「入学時期」(Studieneingangsphase)、「第1期」、「第2期」の3つに分かれている。全ての種類の授業の授業時間と単位数は同じである。「入学時期」に設置されている授業は、ドイツ語の教職課程入門のみで、週1時間の1.5単位の授業が8種類行われる。「第1期」に設置されている授業は、ドイツ語の教授法・方法論入門のみで、週2時間4単位の授業が4種類行われる。「第2期」には、話すこと・聞くこと、書くこと・テキスト作成、言語規範、読むこと・美しいコミュニケーション・メディアコミュニケーション、多数の言語の5つからなる。話すこと・聞くことでは週2時間6単位の授業が2種類提供される。書くこと・テキスト作成では、週2時間6単位の授業が3種類行われる。言語規範では、週2時間6単位の授業が2種類提供される。読むこと・美しいコミュニケーション・メディアコミュニケーションでは、週2時間6単位の授業が3種類提供される。多数の言語では、週2時間6単位の授業が2種類設置されている。専門教授法で行われる授業内容は、各授業間で過当たり授業時間数・単位数においてあまり相違点がなく授業の種類も少ないことが特徴である。

このようにドイツ語の教職課程の構造は、専門課程と専門教授法に分かれていることが理解を難しくしているのだが、第1期で必要とされる単位を修得すれば学士に相当する学位を、第2期までの単位を修得しディプロム論文を書けばマギステルの資格を得て、AHSでドイツ語を教えることが出来る。

## (2) 「カトリック宗教」コースのカリキュラム<sup>(28)</sup>

「カトリック宗教」コースの教職課程は、大きく分けて「第1期」、「第2期」、「ゼミナール」、「選択科目と自由選択科目」、「女性と性の研究」

(Frauen- und Geschlechterforschung)、「自由専門科目」(Freifach)に分かれる。受講生が2008・09年で286人と少ないため<sup>(29)</sup>、受講科目が決まっているのが特徴的である。

第1期は、神学入門、キリスト教の哲学、社会倫理、宗教学、旧約聖書、新約聖書、教会史、礼拝学の基礎、教育学の職業準備教育、専門の教授法、教育実習の11から成っている。神学入門では、神学入門Ⅰという名称の授業が週2時間3単位行われる。キリスト教の哲学では、哲学人類学(週4時間6単位)と形而上学(週2時間3単位)という2種類の授業が行われる。社会倫理では、倫理Ⅰ：倫理入門が週2時間3単位実施される。宗教学では、宗教史入門(イスラム)が週2時間3単位行われる。旧約聖書では、古代の契約の基礎的なテキスト解釈Ⅰが週2時間3単位おこなわれる。新約聖書では、新約聖書入門(週2時間3単位)と新約聖書の基礎的なテキスト解釈(週2時間、2単位)の授業が置かれている。教会史では、教会史Ⅰ：最初のキリスト教の1000年―ユダヤ人の再生運動から世界のローマ教皇までが週2時間3単位行われる。礼拝学の基礎では、礼拝学Ⅰ：基礎の授業が週2時間3単位分行われる。専門の教授法と、教育学の職業準備教育と教育実習は、哲学・教育学部の教職課程コースの中で行われる。

第2期は、キリスト教の哲学、キリスト教の社会的教義、宗教学、旧約聖書、新約聖書、基礎的神学、教義上の神学、全キリスト教会の神学、道徳神学、教会法、司牧神学、礼拝学と秘跡神学、宗教教育と教理問答学、教育学の職業準備教育、専門の教授法、教育実習の16から成っている。キリスト教の哲学、宗教学、旧約聖書、全キリスト教会の神学の授業は、2010年度は開講されていない。社会的教義では週2時間3単位の授業(キリスト教の社会的教義Ⅰ)が、新約聖書では週2時間3単位の授業(新約聖書の

神学：ヨハネのキリスト論）が、基礎的神学では週2時間2単位の授業（基礎的神学Ⅰ）が、道德神学では週2時間3単位の授業（道德神学の基礎コースⅠ：道德の基礎）が、教会法では週2時間2単位の授業（教会法の概観）が、司牧神学については週2時間3単位の授業（司牧神学）が、礼拝学と秘跡神学では週2時間3単位の授業（秘跡の休み）が、宗教教育と教理問答学では週2時間3単位の授業（宗教教育と教理問答学Ⅰ）がそれぞれ1つずつ設置されている。教義上の神学のみは、教義上の神の教え（週2時間3単位）と教義学の基本的な質問（週2時間3単位）という2種類の授業が設置されている。教育学の職業準備教育（事前教育実習）と教育実習とは第1期と同様に別に行われる。専門の教授法については、義務教育学校における宗教の専門教授法（週2時間3単位）、専門教授法ゼミナール（週2時間2単位）、特別な専門教授法Ⅰ：聖書の教授法（週2時間3単位）、特別な専門教授法Ⅱ：倫理教育（週2時間3単位）、特別な教授法Ⅲ：哲学的・神学的に考える（週2時間3単位）、特別な専門教授法Ⅳ：学習作業（週1時間1単位）の6つの講義から成っている。

カトリック神学の教職課程を卒業するためには、第1期・第2期の授業だけではなく、ゼミナール、選択科目と自由選択科目、女性と性の研究、自由専門科目も履修しなければならない。最後に、教育学の職業準備教育（教育実習の事前指導に相当）は、第1期に1単位の授業を4つ、2単位の授業を1つ課され、第2期には2単位のゼミナールを4つ課される<sup>(30)</sup>。教育実習は、第3セメスターから教育実習第1期の授業が3単位分、第5セメスターから教育実習第2期の授業が8単位分課される<sup>(31)</sup>。

### 3. 教育大学における教員養成

#### (1) 教育大学の成立過程

教育大学は、2007年10月にスタートした新しい教育機関であるのだが、成立の際に51からなる連邦立の教育アカデミー（Pädagogische Akademie, PÄDAK）・職業教育アカデミー（Berufspädagogische Akademie）<sup>(32)</sup>・教育研究所（Pädagogische Institut）と、カトリック系の教育アカデミー、宗教教育アカデミー（Religionpädagogische Akademie）<sup>(33)</sup>、宗教教育研究所（Religionpädagogisches Institut）等が14の教育大学（9つが連邦立、5つが私立）に統合・再編された。これらは、いずれも1960年代の成立以来、中等後教育機関と見なされてきた。教育アカデミーでは、教員を希望する学生に対して準備教育が行われるのに対し、教育研究所では現職教員の継続教育が行われるという相違点がある。その再編状況は、以下の通りである<sup>(34)</sup>。

#### 国立（連邦立）の教育大学

- ①ウィーン教育大学：前身機関はウィーン教育アカデミー、ウィーン職業教育アカデミー、ウィーン教育研究所、ウィーン職業教育研究所、ウィーン市立教育研究所。4つの連邦立、1つのウィーン市立の教員養成機関が1つに再編された<sup>(35)</sup>。
- ②ニーダーエスターライヒ教育大学：ニーダーエスターライヒ教育アカデミー、ニーダーエスターライヒ教育研究所。ウィーン近郊のニーダーエスターライヒ州にある2つの連邦立の教員養成機関が1つに統合された。
- ③リンツ教育大学：オーバーエスターライヒ教育アカデミー、リンツ職業教育アカデミー、オーバーエスターライヒ教育研究所。リンツを州都とするオーバーエスターライヒ州の3つの連邦立の教員養成機関が1つに統合され

た。

- ④ザルツブルク教育大学：ザルツブルク教育アカデミー、ザルツブルク教育研究所。ザルツブルク州の2つの教員養成機関が1つに統合された。
- ⑤ティロル教育大学：ティロル教育アカデミー、インスブルック職業教育アカデミー、ティロル州立教育研究所。インスブルックを州都とするティロル州にあった2つの連邦立、1つの州立の教員養成機関が1つに再編された。
- ⑥フォアアールベルク教育大学：フォアアールベルク教育アカデミー、フォアアールベルク教育研究所、フォアアールベルク州立教育研究所。フォアアールベルク州の2つの連邦立、1つの州立の教員養成機関が1つに再編された。
- ⑦ケルンテン教育大学：ケルンテン教育アカデミー、ケルンテン教育研究所。ケルンテン州の2つの連邦立の教員養成機関が統合された。
- ⑧シュタイエアマルク教育大学：シュタイエアマルク教育アカデミー、グラーツ職業教育アカデミー、シュタイエアマルク教育研究所。グラーツを州都とするシュタイエアマルク州にあった3つの連邦立の教員養成機関が統合された。
- ⑨農業・環境教育大学：ウィーン農業アカデミー。主に農業系の職業教育学校の教員養成に特化しているのであるが、この教育大学のみは、他の教育大学と異なり農業を管轄する連邦農業・林業・環境・水管理省（Bundesministerium für Land- und Forstwirtschaft, Umwelt und Wasserwirtschaft）に帰属していたために、教育アカデミー・教育研究所等との再編が行われずに教育アカデミーから教育大学への名称変更のみにとどまった。

## 私立の教育大学

- ①ウィーン／クレムス・教会教育大学：ウィーン大司教区立教育アカデミー、ウィーン大司教区立宗教教育アカデミー、ウィーン大司教区立教育研究所、ウィーン大司教区立宗教教育研究所、ザンクト・ベルテン司教区立教育アカデミー、ザンクト・ベルテン司教区立宗教教育研究所、プロテスタントの宗教教育アカデミー、プロテスタントの宗教教育研究所。ウィーン大司教区の4つの教員養成機関、ザンクトベルテンを州都とするニーダーエスターライヒ州の2つの教員養成機関、2つのプロテスタント系の教員養成機関からなる8つの教員養成機関が再編されて設立された。これは、ウィーン市とニーダーエスターライヒ州の教員養成機関が統合されて1つの教育大学になったことを意味している。
- ②リンツ司教区立教育大学：リンツ司教区立教育アカデミー、リンツ司教区立宗教教育アカデミー、リンツ司教区立宗教教育研究所。オーバーエスターライヒ州に相当するリンツ司教区の3つの教員養成機関が統合された。
- ③エディト・シュタイン教会教育大学：インスブルック司教区立教育アカデミー、インスブルック司教区立宗教教育アカデミー、インスブルック司教区立宗教教育研究所、ザルツブルク大司教区立宗教教育アカデミー、ザルツブルク大司教区立宗教教育研究所、フェルトキルヒ司教区立宗教教育研究所。この教育大学は、ティロル州・ザルツブルク州・フォアアールベルク州にあったカトリック系の6つの教員養成機関が統合された。この教育大学は、州や司教区の壁を越えて設立されたのである。
- ④グラーツ教会教育大学：グラーツ・ゼッカウ司教区立教育アカデミー、グラーツ・ゼッカウ司教区立宗教教育アカデミー、グラーツ・ゼッカウ司教区立宗教教育研究所。シュタイ

エアマルク州に相当するグラーツ・ゼッカウ司教区の3つの教員養成機関が統合されて設立された。

- ⑤私立ブルゲンランド教育大学：財団ブルゲンランド教育アカデミー、ブルゲンランド教育研究所、アイゼンシュタット司教区立宗教教育研究所。財団立の教員養成機関が連邦立とカトリック系の教育研究所を吸収する形で設立された教育大学である。この教育大学のみは、宗教系ではないと同時に、公立系とカトリック系の教員養成制度を内包した教育大学である。

## (2) 宗教の教員養成をめぐる扱い

前述したように、オーストリアの教育大学は、大きく分けて国立（連邦立）と私立（大半はカトリック教会立）から成っている。オーストリアの高等教育機関は、私立大学を除いて<sup>(36)</sup> 財政面で連邦政府に依存しているが、教育大学のみは公立の教育大学とは別にカトリック系の教会教育大学がオーストリア全州をカバーするように存在している。その大きな根拠になっているのが、宗教科目の扱いである。

1962年7月9日、オーストリア連邦政府とバチカンとの間で結ばれた協定がその根拠となっている。協定の第1条では、「教会は、全ての公立学校及び全ての公的な法律で認められた学校におけるカトリックの生徒に対して宗教授業（Religionsunterricht）を授ける権利を持つ」<sup>(37)</sup> としている。これは、オーストリアで宗教の授業を行うためには、教会に対して強い影響力を持つバチカンの承認が必要であることを示している。プロテスタントや東方正教会等の宗派・宗教についても同様の規定が適用される。

そして、教員養成を行う教育アカデミー（当時）についても第1条2項で「公立学校及び公的な法律で認められた教育アカデミーは、配慮を持って宗教教育が教えられなければならな

い」<sup>(38)</sup> となっている。そのため、カトリック教会と関係の深い私立の教会教育アカデミーでのみ宗教の教員養成が行われるようになったのである。現在もこの協定の効力は残っている。ただし、AHSにおける宗教科目の教員養成は、総合大学の（カトリック系・プロテスタント系）神学部で行われる。

## (3) ウィーン教育大学のカリキュラム (国民学校)<sup>(39)</sup>

ウィーン教育大学の国民学校の教職課程は、履修をしなければならない科目はあらかじめ決められていて全て必修である。各セメスターに6単位の科目が5つずつ配置され、合計30の科目の単位を修得しなければならない。

第1セメスターの科目は、オリエンテーション（週5時間）、熟考（週5.5時間）、学習（週6時間）、教育（週4.5時間）、教授（週5時間）であり、計週26時間分の授業が行われる。第2セメスターの科目は、作業と研究の基礎（週6時間）、観察する―推論する（週5時間）、異質性・多様性（週5時間）、計画（週6時間）、カリキュラムの教育範囲（週6時間）であり、合計週28時間分の授業が行われる。第3セメスターは、コミュニケーションの観点（週6時間）、行動の専門知識の構造1（週6時間）、専門の学問・専門教授法（週5.5時間）、行動の専門知識の構造2（週5時間）、専門の学問・専門教授法（週5.5時間）であり、計週28時間分の授業が行われる。

第4セメスターの科目は、専門の学問・専門教授法（週5.5時間）、専門の学問・専門教授法（週5.5時間）、学校実践研究（週5時間）、結合（週5時間）、個々の研究の重点（週6時間）であり、計週27時間分の授業が行われる。第5セメスターでは、専門の学問・専門教授法（週5.5時間）、個別化・差異化（週6時間）、学校実践研究（週5時間）、個々の研究の重点（週6時間）、応用的な作業と研究1（週5時間）であり、



計週27.5時間分の授業が行われる。第6セメスターでは、専門の学問・専門教授法（週4時間）、評価・判定・成績の測定・基準（週6時間）、教育の範囲における発展（週5.5時間）、専門の学問・専門教授法（週4時間）、応用的な作業と研究2・学士論文（週9時間）であり、計週28.5時間分の授業が行われる。

教育大学のカリキュラムを見た場合、2つの特徴が見受けられる。1つは、同じ名称の授業（特に専門の学問・専門教授法）が多く見受けられることである。もう1つが動詞を名詞化した名称の授業（例、熟考、学習）が多く、実践を重視する印象が強いことである。

#### (4) ウィーン教会教育大学のカリキュラム (カトリック宗教科)<sup>(40)</sup>

ウィーン教会教育大学のカトリック宗教科の教育課程は、それぞれ6単位の30のモジュールに分かれていて全てのモジュール（180単位）を取得すれば修了する形を取っている。本論では、各モジュールを構成する授業科目について羅列する。

第1モジュールの表題は、「入学期」となっていて、内部は宗教教育入門（1単位）、神学を学ぶ（1単位）、職業選択（1単位）、学校を新しく発見する（3単位）から成る。第2モジュールの表題は、「人間科学・宗教現象学入門」となっていて、宗教を引き受ける・解釈する・推論する（1単位）、授業の神学入門（1単位）、教育経験の熟考（1単位）、子どもの成長から（1単位）、宗教って何？入門（1単位）、宗教・信仰・真理（1単位）から成る。第3モジュールの表題は、「神学の入門教育」となっていて、哲学入門（1単位）、賛美信仰―典礼の神学入門（1単位）、聖書の世界（1単位）、聖書の解釈学（1単位）、信仰の基本コース第1部（1単位）、基本的な神学入門―なぜ我々は信仰するのか、何を我々は信仰するのか？（1単位）から成る。

第4モジュールの表題は、「仲裁過程としての授業」となっていて、教授・学習過程の計画と形成（1単位）、関係形成としての授業（1単位）、仲裁過程における心的な現象（1単位）、仲裁過程としてのキリスト教の信仰（1単位）、学校法と宗教授業法入門（1単位）、学校の仲裁過程における修辭学（0.5単位）、仲裁道具としての声（0.5単位）、仲裁とコンピューター―宗教授業におけるコンピューターの投入（1単位）、第5モジュールの表題は、「観察する、方向づけする、試す―教授法の問題提起入門」となっていて、入門実践―観察する・方向づけする・試す（3単位）、教授法的な問題提起入門・基本的な方法論（1単位）、授業の出来事における教授法入門―観察する、方向づける、試す（1単位）、教授法的な問題提起入門・第2の専門教育への基本的な方法論（1単位）、第6モジュールの表題は、「教授と学習」となっていて、教授と学習の心理的な条件（1単位）、教授・学習過程における組織と評価（1単位）、今日における集団と社会の学習（1単位）、生徒が学ぶ―教師もまた（3単位）第7モジュールの表題は「人格教育と宗派間の学習」となっていて、信仰の精神性と教育（1単位）、人格教育とアイデンティティの発展（1単位）、自己経験と信仰（1単位）、和解した差異―信仰告白と全キリスト教徒（1単位）、キリスト―教会―秘跡（1単位）、宗派間の・全キリスト教の学習の入門（1単位）から成る。第8モジュールの表題は、「神学の基本的なテキストとテーマ」であり、信仰の基本コース第2部（1単位）、旧約聖書：モーセ5書（1単位）、旧約聖書：歴史書（1単位）、神学の概念と構想としての福音（1単位）、新約聖書の奇跡の比喻における神の国（1単位）、道徳神学的思想の基礎（1単位）から成る。第9モジュールの表題は、「神学と実践」となっていて、古代・中世・近代における教会史（2単位）、祝典の日：復活祭と日・



週・年の礼拝の形成 (1単位)、教会と牧師の仕事の基本的機能 (1単位)、特別な道德神学: 生活の倫理 I (1単位)、学生は教会の専門知識を獲得するべきである (1単位) から成る。第10モジュールの表題は、「計画、形成、反映」であり、宗教授業の計画の基本 (1.5単位)、宗教授業の計画と実施 (1.5単位)、宗教授業の計画と実施 (3単位) から成る。

第11モジュールの表題は、「授業・学校研究」であり、教育理論的な議論と授業形成の重要性について (1単位)、経験的な研究方法入門 (1単位)、研究概念—研究方法 (1単位)、教師は授業を研究する (1単位)、論文の基本と技術、(1単位)、学校と宗教授業についての法的な枠組み (1単位) から成る。第12モジュールの表題は、「文化間・宗教間の学習」であり、宗教と学校文化 (1単位)、学習機会と挑戦としての宗教とその個定 (1単位)、宗教学入門 (1単位)、文化間・宗教間の学習入門 (1単位)、学校における宗教の固定 (1単位)、100年ごとの社会における宗教の固定 (1単位) から成る。第13モジュールの表題は、「前後関係における神学」であり、賢明な教えの本 (1単位)、預言者の本 (1単位)、教会史としての使徒行伝 (1単位)、パウロの人物像とパウロの理論 (1単位)、聖書の中心的なテーマ (1単位)、聖書の専門教授法入門 (1単位) から成る。第14モジュールの表題は、「対話における神学」であり、神イエス・キリスト—神学的側面 (1単位)、イエス: 救世主、神の子、救済者—教義学の側面 (1単位)、イエス・キリストへの理解—専門教授法的な側面と聖書のキリスト教 (1単位)、神像とイエス、宗教授業におけるキリスト (3単位) から成る。第15モジュールの表題は、「方法論の専門的知識・象徴的教授法」であり、象徴的教授法 (1.5単位)、教授法の原理と教育課程・教科書の置き換え (1.5単位)、象徴教授法的な学習 (3単位) から成る。第16モ

ジュールの表題は、「宗教教育的な研究」であり、現在の宗教教育研究 (1単位)、宗教教育の研究プロジェクト (1単位)、記述作業 (1単位)、授業における宗教の学習 (1単位)、宗教の教育 (1単位)、ヨーロッパにおける宗教の授業 (1単位) から成る。第17モジュールの表題は、「学校と学習世界における統合とインクルージョン」であり、特殊教育—統合—インクルージョン: 講義とゼミナール (2単位)、特殊教育—統合—インクルージョン: 実践 (1単位)、生活世界の実践 (3単位)、第18モジュールの表題は、「神学の聖書的・体系的側面」となっており、キリストの受難と復活 (1単位)、復活神話への道 (1単位)、キリスト—教会—受難 (1単位)、授業における教会と受難 (1単位)、宗教授業のテーマとしての福音 (2単位) から成る。第19モジュールの表題は、「神学的美学的側面」であり、聖書の神話: 受容と影響の歴史 (1単位)、神話の人類学 (1単位)、主の晩餐—聖餐式 (1単位)、聖書の教育と美学 (1単位)、音楽教育: 美学的側面; ゼミナール (1単位)、音楽教育: 美学的側面: 演習 (1単位) からなる。第20モジュールの表題は、「診断、判定、助言」であり、全体的な学習と診断法 (1.5単位)、全体的な学習と診断法 (1.5単位)、全体的な学習、診断法、支援、忠告 (3単位) から成る。

第21モジュールの表題は、「創造力と業績文化による緊張の場における人間像」であり、創造力と業績文化の狭間の教師の専門性 (1単位)、現在の人間像と業績文化 (1単位)、新しい業績文化の枠組みにおける授業の評価と判定 (1単位)、授業の形 (1単位)、音楽・想像力・創造性・人間教育 (1単位)、宗教授業における芸術と文化 (1単位) と成っている。第22モジュールの表題は、「宗教教育的・教授法的な理論教育の文脈における信仰上の協力」となっており、宗教教育のモデルと概念 (1単位)、モデルと概念における宗教教育の思想 (1単位)

位)、教育学的な議論における宗教教育的概念(1単位)、信仰上の協力の専門教授法的な側面(1単位)、学校の宗教授業における基礎的な信仰上の協力(1単位)、宗教教育的な概念への道(1単位)、信仰上の協力における学校実践(2単位)、学校実践における宗教教育的な概念と教授法のモデル(1単位)から成る

第23モジュールの表題は、「神学の聖書的・倫理的な側面」であり、5つの授業から成っている。第24モジュールは、2010年度は設置されていない。第25モジュールの表題は、「多様性・差異性―計画―外国語」であり、4つの授業が設置されている。第26モジュールの表題は、「グローバル世界における成長」であり、6つの授業が置かれている。第27モジュールの表題は、「学校の発展、宗教、専門性」であり、5つの授業から成っている。第28モジュールの表題は、「専門教授法的な神学の側面」であり、5つの授業から成る。第29モジュールの表題は、「様々な才能ある人を支援する」であり、3つの授業が設置されている。第30モジュールの表題は、「生活・経験世界の学校」であり、3つの授業が置かれている。

以上が教会教育大学のカトリック宗教科の教育課程である。後半は、字数の関係上省略せざるを得なくなったのだが、ウィーン教育大学と比べると教育内容がわかりやすいより具体的な表題となっているのが特徴的である。

## まとめ

本稿は、まずオーストリアの教員養成システムの構造について述べ、総合大学と教育大学のカリキュラム比較を行った。一般的にオーストリアの教育は、2分化されていると言われている。特に、10歳の時点で大学進学を目指すAHSと、卒業後の就職を目指す基幹学校に分かれていることが特徴である。2009年の論文で

は、教育制度を中心に2分化されていることについて述べたのだが、教員養成システムにおいてもAHSの教師は総合大学でのみ養成し、その他の学校の教員は教育大学で養成していることから同じような構造であることがわかった。

総合大学のカリキュラム(ドイツ語、カトリック宗教科)と教育大学のカリキュラム(国民学校、カトリック宗教科)を比較した場合、以下のことがわかった。

- ①総合大学で履修しなければならない科目が教育大学よりも多いこと。特に、ドイツ語の教職課程と国民学校の教職課程を比較した場合にその差は歴然としている。
- ②教科の名称について。総合大学の講義題目の名称は、抽象的な名称で固有名詞が多かったのだが、教育大学のそれはよりシンプルでわかりやすくなっていた。特に、総合大学と教育大学のカトリック宗教科の教職課程を比較した場合、後者は名称だけで教授する内容がわかるような配慮がなされていた。このことは、総合大学の教職課程では抽象的で理論を中心に学ぶのに対して、教育大学では具体的で実践を中心に学ぶということを示している。
- ③教育大学間の差異について。ウィーン教育大学とウィーン・クレムス教会教育大学のカリキュラムを比較した際に、前者のカリキュラムの方がセメスターごとに学ぶ科目が厳密に決められていて、BAKIPのような学校教育に近い印象を持った。それに対して、後者は、モジュールごとに分けられており、大学教育に近い教育課程であった。

課題としては、オーストリアの総合大学と教育大学とのカリキュラムの内容をより厳密に分析出来なかった点である。これは教員養成システムの概要を述べることに字数を多く割いたことによるのだが、教育大学の教育課程では教育

内容にまで述べられていたので、各科目の教育内容にも言及することが今後の目標である。その分析を通して、オーストリアの教育大学の総合大学への統合が可能か不可能なのかについて考察することが出来ればと考えている。

# 【註】

- (1) 一般教育高等学校は、内部がギムナジウム、実科ギムナジウム、社会人向けギムナジウムの3つからなっている。全ての名称にギムナジウムが入るため一般的にギムナジウムと呼ばれている。
- (2) 現在のオーストリアにおける総合大学とは、2002年に制定された大学法第6条で規定されている21の高等教育機関のことを指す。Martha Seböck, *Universitätsgesetz 2002*, 2003, S.42-43 (Wien)。
- (3) Bundesministerium für Wissenschaft und Forschung, *Universitäten Hochschulen – Studium und Beruf 2009*, S.252。
- (4) Ebd, S.253。
- (5) Ebd。
- (6) 多くのコースでは、計9セメスターを2つに分割し、最初の4セメスターを第1期(1. Studienabschnitt)、次の5セメスターを第2期(2. Studienabschnitt)とし、前者をパッチェラー、後者をマスターに対応させている。Ebd, S.253-302。
- (7) Seböck, S.170。
- (8) Ebd。
- (9) 1960年代にリンツ大学の設立が検討された際に、当時のリンツ司教区立哲学・神学教育機関(Lehranstalt)のリンツ大学への統合(神学部の設置)の話があったのだが、当時のリンツ司教ツァウナーの強い反対により実現しなかった。Johannes Ebner, “Die philosophisch-theologischen Studien in Linz haben eine lange Geschichte...”; in Ilse Kögler/ Severin J. Lederhilger (Hg.) *Unsagbares benennen – Gottes und der Menschen willen...*, 2004 (Linz), S.70。同時期に設立されたザルツブルク大学については神学教育機関が統合されて神学部が設立され、クラゲンフルト大学については元々神学教育機関が存在しなかったために神学部が設立されなかった。
- (10) 大学法の21の高等教育機関に含まれていない教

育大学は、Universitätと名乗ることはできず Hochschuleと呼ばれている。ただし、英語名についてはその制約がないため、教育大学は英語名を “The University of Education” としており、事実上大学と名乗っている。

- (11) BMWF, S.411。
- (12) Ebd, S.420。
- (13) Ebd, S.412。
- (14) この規則が制定された2006年時点では、初等教育から高等教育までを管轄する教育研究省であったのだが、2007年の選挙後に高等教育分野が学術研究省として切り離されて、教育文化省になり現在に至っている。
- (15) 2010年11月11日にインタビューしたウィーン教育大学のイボ・ゾフ教授談。
- (16) 同上。
- (17) 幼稚園は、保護者と生活する時間の多い子どもを対象とし在園期間が短いのに対し、学園は保護者と分かれて生活する時間の少ない子どもを対象とし在園期間が長いという違いがある。オーストリアの幼稚園は、日本の幼稚園と性格が近く、学園は日本の保育所と性格が近いと言うことが出来る。
- (18) <http://www.abc.berufsbildendeschulen.at/de/standorte>。(2010年11月29日確認)
- (19) Bundesministerium für Unterticht, Kunst, und Kultur, *Lehrplan der Bildungsanstalt für Kindergartenpädagogik*, S.6。  
[http://www.abc.berufsbildendeschulen.at/upload/655\\_lp\\_bakip\\_anl.pdf](http://www.abc.berufsbildendeschulen.at/upload/655_lp_bakip_anl.pdf) (2010年11月29日確認)
- (20) Bundesministerium für Unterticht, Kunst, und Kultur, *Lehrplan der Bildungsanstalt für Kindergartenpädagogik*, S.7。  
[http://www.abc.berufsbildendeschulen.at/upload/655\\_lp\\_bakip\\_anl.pdf](http://www.abc.berufsbildendeschulen.at/upload/655_lp_bakip_anl.pdf) (2010年11月29日確認)
- (21) [http://www.bmukk.gv.at/schulen/recht/gvo/bg\\_sportlehrerausbildung.xml](http://www.bmukk.gv.at/schulen/recht/gvo/bg_sportlehrerausbildung.xml) (2010年11月29日確認)
- (22) [http://www.bmukk.gv.at/schulen/recht/gvo/bg\\_sportlehrerausbildung.xml](http://www.bmukk.gv.at/schulen/recht/gvo/bg_sportlehrerausbildung.xml) (2010年11月29日確認)
- (23) Helmut Bachmann, *Anmerkungen zur Komplexität der NMS-Entwicklungsarbeit in: Erziehung&Unterricht 7-8/2009*, S.659。
- (24) Ebd, S.662。

- (25) 2010年11月11日にインタビューしたウィーン教育大学のイボ・ゾフ教授談。
- (26) 2010年11月9日にインタビューしたウィーン・クレムス教会教育大学のヘリバルト・バステル氏授談。
- (27) <http://online.univie.ac.at/vlvz?kapitel=1003&semester=W2010> (2010年11月29日確認)
- (28) <http://online.univie.ac.at/vlvz?kapitel=103&semester=W2010> (2010年11月29日確認)
- (29) Statistik Austria, *Bildung in Zahlen 2008/09 Tabellenband*, S.286.
- (30) *Studienplan zur Pädagogischwissenschaftlichen Berufsvorbildung und zur Schulpraktische Ausbildung der Lehramtsstudierenden am Universitätsstandort Wien*, S.3.  
[http://sss-lehrerinnenbildung.univie.ac.at/fileadmin/user\\_upload/SSC/SSC\\_PhilBild/LehrerInnenbildung\\_Studienplan/Studienplan\\_PWB-SPA.pdf](http://sss-lehrerinnenbildung.univie.ac.at/fileadmin/user_upload/SSC/SSC_PhilBild/LehrerInnenbildung_Studienplan/Studienplan_PWB-SPA.pdf) (2010年11月29日確認)
- (31) *Studienplan zur Pädagogischwissenschaftlichen Berufsvorbildung und zur Schulpraktische Ausbildung der Lehramtsstudierenden am Universitätsstandort Wien*, S.7.  
[http://sss-lehrerinnenbildung.univie.ac.at/fileadmin/user\\_upload/SSC/SSC\\_PhilBild/LehrerInnenbildung\\_Studienplan/Studienplan\\_PWB-SPA.pdf](http://sss-lehrerinnenbildung.univie.ac.at/fileadmin/user_upload/SSC/SSC_PhilBild/LehrerInnenbildung_Studienplan/Studienplan_PWB-SPA.pdf) (2010年11月29日確認)
- (32) 職業教育アカデミーとは、職業教育系の学校（BHS、BMS、職業学校）の教員養成が行われる中等後教育機関である。
- (33) 宗教教育アカデミーとは、宗教科目の教員の養成を行う教育機関である。
- (34) [http://www.schule.at/index.php?url=news&news=&bereich=&suchtext=&news\\_id=4431](http://www.schule.at/index.php?url=news&news=&bereich=&suchtext=&news_id=4431) を元に作成。(2010年11月29日確認)
- (35) 註34のサイトでは、ウィーン教育大学の前身の教育機関について、ウィーン教育アカデミー、ウィーン職業教育アカデミー、ウィーン教育研究所、ウィーン市立教育研究所の4つのみであった。しかし、ウィーン教育大学のゾフ教授によると「ウィーン職業教育研究所もウィーン教育大学に統合されたため、5つの教育機関が統合された」とのことであった。本稿では、現場の意見を尊重して5つの教育機関を記した。
- (36) 私立大学は連邦政府からの補助金を受け取っていないのだが、高等教育を管轄する連邦学術省傘下のオーストリア評価機構（Österreichische Akkreditierungsrat）の評価を5年に1回受けることを義務づけられている。
- (37) <http://www.verfassungen.de/at/konkordat62.htm> (2010年11月29日確認)
- (38) <http://www.verfassungen.de/at/konkordat62.htm> (2010年11月29日確認)
- (39) Pädagogische Hochschule Wien, *Curriculum für das Bachelor Studium Lehramt für Volksschule*, S.12.  
[http://www.phwien.ac.at/fileadmin/phvie/users/3/pdf/mitteilungsblatt/curricula/APS/Curriculum\\_VS\\_2008-09\\_01maerz2009.pdf](http://www.phwien.ac.at/fileadmin/phvie/users/3/pdf/mitteilungsblatt/curricula/APS/Curriculum_VS_2008-09_01maerz2009.pdf) (2010年11月29日確認)
- (40) <http://www.kphvie.ac.at/ausbildungstudium/ausbildung-religion/religion-kath/studienplaene.html> (2010年11月29日確認)

